

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 大阪湾広域臨海環境整備センター

住所：大阪市北区中之島二丁目2番2号 大阪中之島ビル9階

氏名：理事長 服部洋平 ㊞

法人番号：8120005004407

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	大阪沖埋立処分場及び神戸沖埋立処分場における藻場創出

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出
プロジェクト情報	大阪沖埋立処分場及び神戸沖埋立処分場は、近畿圏広域の廃棄物を長期安定的かつ適正に処理することを目的とした大阪湾の埋立計画（大阪湾フェニックス計画）によって建設された最終処分場の一つである。当施設の運営は、近畿2府4県169市町村と4港湾管理者が出資する「大阪湾広域臨海環境整備センター」が行っている。 当施設は、最終処分場としての役割に加えて、環境アセスメント（神戸沖環境影響評価書：平成9年、大阪沖環境影響評価書：平成11年）において護岸を海生生物の生育・生息環境に配慮した構造とすることが提唱され、設計に緩傾斜護岸や傾斜護岸を取り入れることで、周辺海域の生産性向上を期待している。また、平成18年度からは、定期的に環境モニタリング調査を実施し、効果の把握に努めている。
クレジット取得理由	センターでは「環境管理計画2030」を策定し、カーボンニュートラルに挑戦することとしており、実質的なCO2排出量ゼロの実現を目指すうえで、モニタリング調査や新たな緩傾斜護岸等の設置による藻場拡大の検討に伴う費用が必要なため。
クレジット取得後の計画や見通し	クレジット取得結果を大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）やひょうごブルーカーボン連絡会議へ情報共有を行うことで、取り組み内容やブルーカーボン算定手法が周知されることとなり、センターのCO2吸収源の回復・拡大の後押しとなることが期待されるとともに、他団体でのブルーカーボン増強検討の一助になることも期待している。
申請対象期間に実施した活動の概要	○処分場における藻場・海洋生物調査の実施 良好な藻場の育成と維持拡大を目指し、申請対象期間中の当処分場において、令和2年度、令和4年度及び令和6年度の3回調査を実施している。 大阪沖埋立処分場 ・令和2年度：5月24日（日） ・令和4年度：6月4日（土） ・令和6年度：5月12日（日） ※いずれの年も全1日間で実施。 神戸沖埋立処分場 ・令和2年度：5月31日（日） ・令和4年度：6月12日（日） ・令和6年度：5月11日（土） ※いずれの年も全1日間で実施。 ○地域社会との連携・周知活動 地域社会との連携を進めるため、センター事業を分かりやすく解説した広報用DVDやパンフレットを作成し、処分場見学時や環境啓発イベント（4回／年程度）で活用するとともに、センターの環境に関する取り組みを環境報告書としてとりまとめ、ホームページ上で公表している。環境保全・創造に関する地域での市民活動に対する助成や大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成を実施している。
プロジェクト実施開始日	平成9年～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.631092(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和2年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 86.79 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目1	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.832(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.631092(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.31923×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 330.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO2排出量】 0.274(t-CO2) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 106.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO2排出量】 0.088(t-CO2)

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.31(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.350158(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和2年度調査結果（アカモク、シダモク、ヒジキ、タマハハキモク）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 82.6 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目2	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目2	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 1.386(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.350158(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：3.95954×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	1.119(t-CO2)

項目3	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.554398(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和2年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目3	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.049(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.554398(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.034(t-CO2)

項目4	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.923482(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和2年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナ ゴ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目4	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.277(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.923482(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.189(t-CO2)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.026461(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和2年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 105.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目5	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目5	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.042(t-CO₂)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.026461(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.60226×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 382.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.317(t-CO₂) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 279.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.231(t-CO₂)

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	-0.513(t-CO2)

項目6	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.186579(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和2年度調査結果（アカモク、シダモク、ヒジキ、タマハハキモク、ヨレモクモドキ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 44.98 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目6	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目6	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.402(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.186579(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：2.15618×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目6	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.324(t-CO2)

項目7	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.214105(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和2年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目7	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.019(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.214105(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目7	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.013(t-CO2)

項目8	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.602544(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和2年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナ ゴ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目8	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.18(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.602544(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目8	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.123(t-CO2)

項目9	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.49546(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和4年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 86.79 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目9	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目9	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.653(t-CO₂)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.49546(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.31923×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 330.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.274(t-CO₂) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 106.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.088(t-CO₂)

項目9	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.165(t-CO2)

項目10	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.188013(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和4年度調査結果（アカモク、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 82.6 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照） 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目10	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目10	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.744(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.188013(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：3.95954×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目10	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.601(t-CO2)

項目11	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.111933(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和4年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目11	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.01(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.111933(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目11	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.006(t-CO2)

項目12	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.71428(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和4年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナ ゴ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、マサゴシバリ）による。（別紙 1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目12	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 $0.214(t-CO_2)$
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.71428(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目12	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.146(t-CO2)

項目13	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.419386(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和4年度調査結果（ヤハズグサ）による。（別紙1 参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.19 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目13	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.269(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：1.419386(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.19×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目13	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.184(t-CO2)

項目14	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.076092(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和4年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 105.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目14	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目14	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.121(t-CO₂)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.076092(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.60226×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 382.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.317(t-CO₂) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 279.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.231(t-CO₂)

項目14	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	-0.449(t-CO2)

項目15	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.138539(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和4年度調査結果（アカモク、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 44.98 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目15	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目15	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.298(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.138539(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：2.15618×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目15	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.241(t-CO2)

項目16	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.075666(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和4年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目16	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.006(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.075666(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目16	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.004(t-CO2)

項目17	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.619751(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和4年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナ ゴ、ススカケベニ、フダラク、マサゴシバリ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目17	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.185(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.619751(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目17	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.127(t-CO2)

項目18	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.024611(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和4年度調査結果（ヤハズグサ）による。（別紙1 参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.19 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目18	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.004(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.024611(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.19×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目18	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.003(t-CO2)

項目19	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.714811(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和6年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照） 【面積の資料】 【別紙1】 算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 86.79 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】 湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目19	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目19	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 2.262(t-CO₂)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：1.714811(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.31923×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 330.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.274(t-CO₂) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 106.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.088(t-CO₂)

項目19	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	1.464(t-CO2)

項目20	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.103726(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和6年度調査結果（アカモク、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 82.6 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月12日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目20	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目20	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.41(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.103726(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：3.95954×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目20	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.331(t-CO2)

項目21	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.849215(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和6年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目21	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.076(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.849215(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目21	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.052(t-CO2)

項目22	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.701499(ha) 【面積の算定根拠】 大阪沖埋立処分場の令和6年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナ ゴ、ススカケベニ、フダラク）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目22	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.21(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.701499(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目22	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.143(t-CO2)

項目23	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.280453(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和6年度調査結果（ワカメ）による。（別紙1参照） 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 105.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したワカメについて、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目23	④吸収係数	【P/B比】 1.15 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目23	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.449(t-CO₂)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.280453(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：1.60226×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 382.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.317(t-CO₂) 【船舶の種類】 警戒船 (254kW / 180PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 7.00(h) 【出力】 279.00(kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 0.231(t-CO₂)

項目23	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	-0.185(t-CO2)

項目24	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.287355(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和6年度調査結果（アカモク、シダモク、ヒジキ、タマハハキモク、ヨレモクモドキ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 44.98 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 坪刈りによって採集したガラモ場について、坪刈り前のコドラート写真から被度を設定し、被度100%時の湿重量を算出し、得られた値の平均値を採用した。（別紙2参照）。 湿重量には、令和6年5月11日に坪刈りをしたデータを使用した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 【別紙2】湿重量と被度（大阪沖・神戸沖）.pdf 【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

項目24	④吸収係数	【P/B比】 1.32 【P/B比の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし 【炭素含有率】 34(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値「博多港におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望」を参照 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
------	-------	--

項目24	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 0.619(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.287355(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 85% (吸収係数：2.15618×評価：85%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目24	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.5(t-CO2)

項目25	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】緑藻型 【構成種】緑藻
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.141222(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和6年度調査結果（アオサ属）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.09 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目25	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.012(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.141222(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.09×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目25	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.008(t-CO2)

項目26	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.299686(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和6年度調査結果（マクサ、カバノリ、ベニスナゴ、ススカケベニ）による。（別紙1参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.3 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目26	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.089(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.299686(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.3×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目26	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礫性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.061(t-CO2)

項目27	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】その他 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年04月01日～2025年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.037854(ha) 【面積の算定根拠】 神戸沖埋立処分場の令和6年度調査結果（ヤハズグサ）による。（別紙1 参照）。 【面積の資料】 【別紙1】算定資料（大阪沖・神戸沖）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 0.19 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値「海草・海藻藻場のCO2貯留量算定ガイドブック」を参照。 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目27	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 0.007(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：0.037854(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 72% (吸収係数：0.19×評価：72%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目27	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 当海域は水深10m程度で、岩礁性藻場の生育基盤に適さないシルト混粘土質が優占している。また、大阪沖及び神戸沖埋立処分場着工前に行われた「第4回自然環境保全基礎調査（環境省）」では、両処分場の周辺海域では藻場は確認されていない。両処分場の供用後モニタリング調査では、安定した藻場の分布が確認できており、当施設によって藻場が創出されたと考えられる。 以上のことから、本申請のベースラインは0と設定した。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.004(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	5.0 t
------------------	-------